

ステップ 1 歩行者、自転車、自動車それぞれの目線から考えよう

歩行者の目線から考えると...



- ✓ 段差、凹凸や水溜りのある道路は歩きにくい
- ✓ ブロック舗装は雨天時にすべる
- ✓ 歩道が大きく傾斜していると歩きにくい
- ✓ 植木、看板、室外機などの障害物が歩道にあると邪魔
- ✓ 暗い歩道は危険
- ✓ 並走または逆走してくる自転車が怖い
- ✓ 沼津仲見世商店街などの通行禁止の場所を走る自転車は危険
- ✓ スピードを出して走行する自転車、自動車が怖い
- ✓ ながらスマホの自転車、自動車とのすれ違いが怖い
- ✓ 死角から急に自転車、自動車が出てきて驚くことがある
- ✓ 停止線で止まらない車がいる
- ✓ ウィンカーを出さない自動車は危険
- ✓ 信号を無視する人が多い
- ✓ 歩道を管理、取り締る人がいない
- ✓ 横断歩道が少ないと思う
- ✓ 歩車分離式の交差点の多くは歩行者の斜め横断ができない

自転車の目線から考えると...



- ✓ 自転車の通行区分が分かりにくい
- ✓ 下り道で道がガタガタだと転びそうで怖い
- ✓ 縁石などの段差は危険だし、走りにくい
- ✓ 自転車横断帯があるところは交差点部における自転車の直進性が乏しい
- ✓ 市立図書館前の歩道と自転車通行帯を区分している縁石が邪魔
- ✓ 自転車通行可の歩道を走っていると交差点部で横断できないところがある
- ✓ 自転車目線の整備ができていない
- ✓ ごみの集積場が路肩側にはみ出ている危険
- ✓ 路面のカラーペイントは滑りやすく危険
- ✓ 雨の日にマンホールやグレーチングの上を通行するのは危険
- ✓ 歩行者は周囲の交通環境への気遣いが無い
- ✓ 夜間は歩行者を認識しづらい
- ✓ 歩行者、自動車は自転車の通行を認知していないことが多い
- ✓ 道がせまいと車道を走っているとき怖い
- ✓ 自動車は余裕幅をとって自転車を追い越してほしい
- ✓ 自転車レーンに車が停まっていると通行しにくい
- ✓ 自動車と自転車は別々に通行した方が安全

- ✓ (現状では) 自転車が車道を通行することは危険が多い
- ✓ 自転車は歩道を通行した方が安全
- ✓ 歩道に人と自転車が通行するには広いスペースが必要
- ✓ 細い道だと邪魔になっていないか不安になる
- ✓ 自転車走行空間が広いと安心して通行できる
- ✓ 店舗などの目的地に近い場所に駐輪場がないと不便
- ✓ あまねガードで自転車を降りて歩いて歩くのは面倒だ
- ✓ 沼津駅から沼津港や千本地区への自転車道がほしい

自動車の目線で考えると...



- ✓ 植栽や標識で歩行者が見にくいときがある
- ✓ 歩行者、自転車の飛び出しが危ない
- ✓ 夜は歩行者と自転車が見にくい
- ✓ 無灯火の自転車は危ない
- ✓ 自転車を追い越すときは気を遣う
- ✓ 自動車の間を縫って走る自転車が危険
- ✓ 直進、右左折の案内は十分手前から行ってほしい

ステップ2 どのように整備したら安全で快適な空間になるか？



- ✓ 段差や凹凸をなくす
- ✓ カーブミラーや横断歩道を適切に設置する
- ✓ 自転車専用の信号機をつける
- ✓ 歩車分離式の信号機を増やしてほしい
- ✓ 幅の広い道路では、押しボタン式で時間の長い信号機をつける
- ✓ (反射式やLEDの道路鋲で) キラキラの道路をつくる
- ✓ 死角の原因になる植栽をなくす
- ✓ マンホールやグレーチングは自転車走行空間以外の場所に設置する
- ✓ 路面表示などで自転車の通行区分を分かりやすくする
- ✓ 路肩の幅員を拡げる
- ✓ 自転車が通行する箇所は、スリット式側溝で整備する
- ✓ 道路空間を適切に配分したらよい
- ✓ 歩道の拡幅より自転車道を整備する
- ✓ 歩行者と自転車の通行環境を広くする
- ✓ 車線は4でなくてよい
- ✓ 自転車走行空間は物理的に車道と分離する
- ✓ 主要な道路では、自転車専用通行帯を設置する

- ✓ 地域における自転車走行ルールの一掃が必要
- ✓ 交通ルールの徹底とマナーの教育も大事
- ✓ (レジャーの観点から) タンデム自転車の公道の走行を認めてほしい
- ✓ 駐輪場を整備する
- ✓ 自動車の駐車スペースを確保してほしい
- ✓ 運送関係の自動車を一時停車させる場所が必要だと思う
- ✓ 路面をもっときれいにしてほしい